

全国がん登録情報2016年分とJ-EPISODE原子力施設作業員コホートとのリンケージ

○古田裕繁、工藤伸一、石沢昇、三枝新

(公財)放射線影響協会

【背景】放射線影響協会は国の委託により1990年から放射線業務従事者の健康影響に関する疫学調査J-EPISODEを実施している。2015-19年度に同意者から構成される新しいコホートを再設定し、今後臓器線量とがん罹患との関連の解析を行う。

【目的】解析対象集団と2016年全国がん登録データとのリンケージ（照合）を行い、年齢、部位別がん罹患状況を把握し、照合方法等の評価を行う。

【方法】解析対象集団は当協会放射線従事者中央登録センターに登録されている日本人男性のうち、調査対象者となることに同意した者で、住民票取得による生死・住所の追跡が可能な適格者77,993人であった。全国がん登録法第17条に基づく非匿名化情報の利用申請後、国立がん研究センターで照合を行うため、解析対象集団の氏名、生年月日、性別、住所、データ識別番号からなる外部照合データ約26万件を作成した。住所は生死追跡で把握した複数の住所履歴情報を用いた。照合結果を評価するために、厚労省「全国がん登録罹患数・率報告」基本分類A表の定義に基づき年齢、部位別がん罹患数を集計し、標準化罹患比(SIR)を推計した。悪性新生物症例数はICD10コードC00-C96に該当するものの内、統計対象を採用した。第一原発がんは、全国がん登録制度発足後に初めて原発がんと診断されたものと定義した。

【結果】照合の結果マッチしたレコードから同一人の同一症例を重複排除した悪性新生物罹患数（統計対象区分）は684症例、うち第一原発がんは669症例であった。男性高齢者が多いことから、前立腺、胃、大腸、肺などで症例が多かった。解析対象集団男性のSIRは70%、死亡情報のみのDCO%は0.3%であった。

【結論】全国がん登録罹患数のMI比は0.37、DCO%は3.2%と地域がん登録時代に比べ精度が格段に改善している一方、解析対象集団のSIRが低目であったが、がん登録制度の変化等に伴う罹患数把握の課題も指摘されており、今後全国がん登録制度の安定化を見守る必要がある。全国がん登録データとの照合が確認できたことから今後の追跡による放射線のがん罹患リスク推定の可能性が明らかとなった。

【利益相反】 無

(注) 1.本研究は原子力規制庁の委託事業である。

2. 本研究のがん罹患情報は、全国がん登録法に基づき非匿名化情報の提供を受け、独自に作成・加工したものである。